

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870600269
法人名	医療法人 宮田医院
事業所名	グループホーム なごみの家
所在地	茨城県筑西市丙56-2 (電話) 0296-20-0753

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年3月6日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.6 人

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

## (4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低 80 歳	最高 99 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 宮田医院 訪問看護ステーション
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは木造建築の2階建てであり、周辺は民家が立ち並び、地域に溶けこんでいる。玄関先には、季節の花が植えられており、訪問者を和ませている。利用者も職員も温かく迎え入れてくださり、1つの家族のような感じを受けた。職員の利用者に対する対応はとても丁寧であり、利用者がより良く暮らせるために日々ケアに取り組んでいる。地域の人々が通う病院が母体であり、理事長を含め法人全体が地域との連携を大切にしている。
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の共有に関して、理念を具体化することが取り組み項目として挙げられていたが、利用者や家族、地域や職員が意見を出し合い、誰でもがわかり易い理念へと改め理念実現に向けて日々取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングにて、職員全体で話し合い自己評価に取り組んだ。日頃のケアについての振り返りの機会になったと話されていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、外部評価の結果について話し合いが行われサービス向上に向けて意見交換が行われたり、地域交流について話し合うことで、活発な意見交換が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を発足し、家族同士が集まって意見が出せる場を提供したり、面会時には、ホーム側から積極的に働きかけをし何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。意見等に対し、職員同士で話し合いを設けたり、必要があれば法人会議にて報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の老人会に参加したり、自治会に加入し地域との関わり合いを大切にしている。地域家族交流会をホームで開催したり、消防訓練には地域の方が一緒に参加している。近隣の小学校や保育園等との交流を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を改め、利用者やその家族、地域の方と職員が話し合い、誰もがわかり易い理念を掲げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を共有しており、日々の生活の中やミーティング時に話し合いの機会を持ち、理念の実践に向けて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に参加したり、近隣保育園と交流を図ったりなど地元の人々と交流することを大切にしている。ホームの行事等に來てもらえるように、積極的に働きかけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義を理解している。前回の外部評価の取り組み項目について、改善に向けて取り組んだ。自己評価については、職員全員で話し合い、意見を出しながら行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、外部評価の結果についても話し合いが行われ、サービス向上に向けての意見交換が行われている。		

茨城県 グループホームなごみの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村担当者に相談をもちかけ、問題解決の為に話し合いを行っている。市町村と連携が図れるように、働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	利用者の健康状態や日頃の様子を、定期的に便りを発行したり、電話連絡や面会時に報告している。金銭については、出納帳に記入し、報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会や、家族同士が交流する機会を設けており、その場で色々な意見等が出されている。意見等に対し、話し合いを行っている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動や離職に関して、利用者へのダメージを防ぐ配慮をし慎重に行っている。職員を採用する際は、ホームの職員が面接に同席して見極めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員育成について、法人代表は取り組んでいる。法人内の研修や外部研修を受ける機会があり、スタッフ会議で研修の報告を行っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	法人内の交流や近隣のグループホームとの交流があり、見学に行ったり来たり関係にあり、お互いにサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と十分に話し合い、その後見学に来ていただいたり、居室に空きがあれば体験利用も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	習わしごとや料理など、利用者から教えてもらう場面が多くあり、そういった場面が多くもてるよう言葉かけに配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などから気持ちを推し測ったり、それとなく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や、ミーティングで話しあった職員の意見を反映し、介護計画を作成している。アセスメント表は、ホーム独自の書式を使用しており、利用者がより良く暮らせるために活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しが行われている。状態に変化が生じた場合は、本人や家族、必要な関係者を含めた話し合いを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族も一緒に宿泊し、利用者と共に食事が出来たり、家族の都合に合わせて、病院の送迎を対応する等、柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って、これまでのかかりつけ医の受診が可能である。利用者の大半が母体の病院がかかりつけ医になっている。母体の病院はホームの近くにあり、24時間対応が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに、看取りを行った事例があった。同意書やターミナルケア指針の書類も用意されており、本人や家族、かかりつけ医等を含め話し合いも行われているが、看取りに関して、ホームの対応がどこまで可能かどうか不明慮である。	○	看取りに関し、ホームとしての対応がどこまで可能か、また不可能かを事業所全体で話し合っていたきたい。また、看取りに関してのマニュアル作りにも取り組んでいただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報に関わる書類の保管がきちんと出来ている。利用者に対しての言葉かけや対応に配慮していることが窺えた。		個人情報同意書の内容を、より具体的に明示することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の本人の気持ちを大切に、個々のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気作りを大切にしていることが窺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴や夜間の入浴が可能であり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや庭木の手入れ、裁縫など、一人ひとりが経験や知識を発揮できるようにしたり、お花見や運動会など季節に合った行事を行い、楽しみや張りのある日々を送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて、日常的に買物や散歩等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が安全に過ごせるよう工夫をしながら、鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、利用者と共に避難訓練を定期的に行っている。地域の協力を得るための働きかけを積極的に行っており、訓練時は地域の方も一緒に参加している。備蓄品も整備されている。		

茨城県 グループホームなごみの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ソフト食を採り入れたり、かかりつけ医と相談しながら、一人ひとりに合った食事の支援をしている。食事や水分を記録しており、職員全員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作った作品を飾ったり、食堂や玄関等には季節の花を飾り季節感を採り入れている。窓から射す光は心地よく、温かな雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに馴染みの家具や照明等が持ち込まれており、居心地良く過ごせるよう、本人や家族に相談しながら空間作りに努めている。		